

(様式5)

事業所名ファミリー ヒルズ

目標達成計画

作成日：平成24年10月15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有は施設の介護、経営の方向性を決定する重要な道しるべである。現在の理念が現場に生かされている場面は少ない。なぜなら理念を、管理者及び経営者側から考え作成したものである。今回の見直しは、多方面の意見を招集し全員が認識しながら日々の仕事に生かせる理念に見直す。	毎日の業務中において職員全員が口癖のようにふと出でくような理念を作成し、当施設の色として浸透していきたい。利用者の問題を解決することを目標とした内容にしたい。	基本に還元介護の意味、目的、方向性を話し合う。又、認知症の理解を深めていくことにより現場から理念が出てくることを期待する。職員会議の回数をこなし浸透していき確実なものにしていく。	6ヶ月
2	13	東南海地震発生時において当施設は地域の避難所、介護者避難所としての責務がある。具体的にどう受け入れるのか、又、施設利用者の安全の確保を具体的にどのようにしていくのか、避難した方の身体能力のレベルに対して具体的にどのように援助できるかなどの課題は多い。	災害時発生時において適切に利用者の安全を確保すると共に施設外の地域の方の避難施設として又、災害後の要介護者の避難所としての受け入りに関して当施設の体制を整備する。ハード面を特に整備する。	非常食料の備蓄を行い。救援物資の到着まで生命を維持、ダンボール等でプライバシーの確保、排泄、清潔の保持が提供できる様、訓練及び物品の確保を行う。	10ヶ月
3	49	当施設は、田舎の山の近くに立地しており自然豊かな環境であるが外部との交流が少ない。施設で生活している利用者の方は、当施設内の生活が全てとなり日時様生活がマンネリし刺激がない。外出により社会と触れ合う機会を提供することは良き刺激となり生きる活力を見出せることになる。	「認知症であるが生きる希望と喜びはある。」そう思っていただけたい。	計画的な外出レクリエーションを行うこと。又、職員の業務で外出する場面に同行してもらい例えば欲しい花一輪買うなどの些細なことでも喜んでもらう。積み重ねていけば、利用者の笑顔が多く見られるようになり職員にも大きな喜びとやりがいとなることを期待する。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月